



平成26年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年7月31日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 不二家

コード番号 2211 URL <http://www.fujiya-peko.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 櫻井 康文

問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務人事本部長 (氏名) 河村 宣行

TEL 03-5978-8100

四半期報告書提出予定日 平成26年8月11日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年12月期第2四半期の連結業績(平成26年1月1日～平成26年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年12月期第2四半期	48,375	7.9	△169	—	△35	—	△523	—
25年12月期第2四半期	44,847	3.9	242	△34.2	458	△14.8	135	△52.7

(注) 包括利益 26年12月期第2四半期 △548百万円 (—%) 25年12月期第2四半期 693百万円 (39.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年12月期第2四半期	△2.03	—
25年12月期第2四半期	0.53	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年12月期第2四半期	56,646	28,382	48.7
25年12月期	56,628	29,405	50.5

(参考) 自己資本 26年12月期第2四半期 27,577百万円 25年12月期 28,569百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年12月期	—	0.00	—	1.50	1.50
26年12月期	—	0.00	—	—	—
26年12月期(予想)	—	—	—	1.50	1.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年12月期の連結業績予想(平成26年1月1日～平成26年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	103,000	9.9	1,300	18.5	2,000	11.9	1,200	29.0	4.66

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年12月期2Q	257,846,590 株	25年12月期	257,846,590 株
② 期末自己株式数	26年12月期2Q	83,084 株	25年12月期	82,756 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年12月期2Q	257,763,665 株	25年12月期2Q	257,765,335 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P5「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(セグメント情報等)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（平成26年1月1日～6月30日）のわが国の経済は、企業収益や雇用環境が改善傾向を強めているものの、消費税率引上げ前の駆け込み需要とその後の反動による影響もあり、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

当社グループが属する食品業界におきましては、消費者の根強い低価格志向が続く中で、同業他社との販売競争は熾烈さを増し、さらに、円安や相場変動に伴う急激な原材料価格の高騰が収益を大きく圧迫する厳しい経営環境となりました。

このような環境の中で当社グループは、「常により良い商品と最善のサービス（ベストクオリティ・ベストサービス）を通じて、お客様、ご家族に、おいしさ、楽しさ、満足を提供する」という経営理念のもと、グループ全社を挙げて、お客様視点に基づく、お買い得感や値頃感を訴求する商品やサービスを提供するとともに、高品質な商品や付加価値のあるサービスの提供にも取り組み、売上の拡大をはかってまいりました。また当社は、事業規模の拡大と将来にわたる経営基盤の確立に繋げるべく、和洋菓子等の製造販売及び「タカラブネ」「スイートガーデン」等の店舗ブランドによる小売事業を展開する(株)スイートガーデンを4月1日に連結子会社化し、同社の店舗473店と神戸工場を当社グループに加えることといたしました。これにより、既存洋菓子事業と合わせた、生産面、物流面での効率化や、同社の商品開発力を活かした品揃えの強化、同社店舗の競争力向上に向けた不二家ブランド化等を早期に実現するなど、所期の目的達成に向けた、具体的な製品施策、営業戦略を進めております。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、消費税率引上げ後の客数減により洋菓子事業における既存店売上が低迷するなど厳しい状況ではありましたが、連結売上高は483億75百万円（対前年同期比107.9%）となり、全セグメントとも増収を達成することができました。損益面では、生産ラインの稼働率向上や省人省力化、販売経費の抑制などに取り組むとともに、原材料価格高騰への対応として、一部製品の規格・価格改定などを実施いたしましたものの、主力製品に使用するチョコレート原料やアーモンドなどの想定を上回る価格高騰が、乳製品や卵などの高騰と相まって損益を下振れさせることとなりました。営業損失は1億69百万円（前年同期は2億42百万円の営業利益）、経常損失は35百万円（前年同期は4億58百万円の経常利益）、四半期純損失は5億23百万円（前年同期は1億35百万円の四半期純利益）となりました。

当社グループのセグメントの概況は次のとおりであります。

		当第2四半期連結累計期間		前第2四半期連結累計期間		対前年同期比	増減
		平成26年1月1日から平成26年6月30日まで		平成25年1月1日から平成25年6月30日まで			
		売上高	構成比	売上高	構成比		
洋菓子事業	洋菓子	百万円 13,516	% 27.9	百万円 11,216	% 25.0	% 120.5	百万円 2,300
	レストラン	3,563	7.4	3,512	7.8	101.4	50
	計	17,079	35.3	14,728	32.8	116.0	2,350
製菓事業	菓子	27,743	57.3	26,822	59.9	103.4	921
	飲料	2,749	5.7	2,563	5.7	107.2	185
	計	30,493	63.0	29,385	65.6	103.8	1,107
その他		803	1.7	732	1.6	109.7	70
合計		48,375	100.0	44,847	100.0	107.9	3,528

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

<洋菓子事業>

当社単体の洋菓子におきましては、「贅沢バイクドチーズケーキ」など、製品設計を見直し品質にこだわった価値ある新製品の拡販に取り組むとともに、ひなまつりやゴールデンウィークから母の日に向けたキャンペーン、また消費税率引上げ後の需要減に対応したクーポン券等を用いた販促活動を継続的に展開しました。また、(株)スイートガーデンの売れ筋商品やギフト商品を導入した品揃えの強化にも取り組みました。

店舗開発につきましては、引き続き集客力のあるショッピングセンター内への出店を積極的に進めるとともに、不二家ブランドの優位性が顕著な関東や、九州、東北地区におけるスイートガーデン店舗について、不二家洋菓子チェーン店への早期改装を進めるなど、不二家グループとして、その経営資源を最大活用した店舗の再編成に着手いたしました。その結果、当第2四半期連結会計期間末の不二家洋菓子チェーンの店舗数は、前年同期に比べ186店増加し、890店となりました。

コンビニエンスストアをはじめとする広域流通企業との取り組みにつきましては、「ふんわりペコちゃん」などの企業限定商品を展開したことが、引き続き売上拡大に寄与しました。

4月1日より連結子会社化した(株)スイートガーデンにつきましては、小売店舗の不二家への移管による売上減少がありましたものの、OEM生産が順調に推移し、当初の計画どおりの実績を確保することができました。

高級フランス菓子を製造、販売しているダロワイヨにつきましては、新製品「あまおうのマカロン」が引き続き好調に推移するとともに、同じく新製品「宇治抹茶マカロン」も好評を博しました。消費税率引上げ後の値頃感を求める消費者のニーズにマッチした規格設定もあり、マカロンシリーズの売上拡大が寄与し、前年同期の売上を大きく上回ることができました。

この結果、ケーキ等の洋菓子類の売上高は、消費税率引上げにより、ホールケーキなどの高単価商品の売上に影響が出たものの、(株)スイートガーデンの新規連結もあり、135億16百万円（対前年同期比120.5%）と伸長いたしました。

家族団欒の場としてご利用いただいているレストランにおきましては、2月の降雪、また消費税率引上げにより、既存店売上に大きな影響を受けましたものの、月替わりのお得なセットメニューとして「洋食セレクションメニュー」を展開するなど、売上の拡大につとめました。また、3月に「宇都宮東武店」、4月に「福岡アンパンマン&ペコズキッチン」を開店した寄与もあり、レストランの売上高は35億63百万円（対前年同期比101.4%）と前年同期の実績を上回ることができました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における洋菓子事業全体の売上高は、170億79百万円（対前年同期比116.0%）と増収となりましたものの、消費税率引上げ後の客数減による売上の低下もあり、原材料価格上昇に伴うコスト増を吸収できず、損益面では厳しい状況となりました。

<製菓事業>

当社単体の菓子におきましては、お客様から愛され続けているカントリーマアムが発売30周年を迎えたことを機に、30～40代の女性をターゲットに、チョコチップをさらにおいしく、「大人」をキーワードにしたプレミアム感のある新製品、「16枚カントリーマアム（大人のチョコチップ）」及び「同（大人のココア）」を発売し、併せて記念キャンペーンを展開いたしました。また、夏季の食べ方提案「凍らせておいしいカントリーマアム」キャンペーンを全国の量販店2,000店において大量陳列コンクールとしてスタートさせました。その他、ミルクィー、ルックなどの当社主力ブランド製品の拡販につとめるとともに、果物・野菜の国際ブランド「DoLe（ドール）」や、ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株)の人気商品ブランドとのコラボ製品などの開発にも取り組みました。さらに、地域や販路を限定した製品、また有力流通各社への専用製品の拡販にも引き続き注力するなど、厳しい環境の中、積極的な営業活動を行った結果、売上は前年同期を上回りました。

中国において菓子の製造、卸売を行なっている不二家（杭州）食品有限公司につきましては、主力製品である「ポップキャンディ」を中心に引き続き販路の拡大につとめるとともに、北京、上海等の主要都市で、ペコちゃ

ん・ポコちゃんのキャラクターを使ったテレビCMを放映するなど、積極的な宣伝活動を通じて消費者への認知度アップをはかり、売上は前年同期を大幅に上回りました。

この結果、菓子の売上高は、277億43百万円（対前年同期比103.4%）となりました。

飲料におきましては、主力の「ネクターピーチ350g缶」が順調に売上を伸ばすとともに、新製品の「プレミアムネクター」やコンビニエンス企業限定製品の「ピーチスムージー」の販売が好調に推移しました。加えて、ネクターは発売50周年を記念した消費者キャンペーンの効果もあり、売上を伸ばさせることができました。

この結果、飲料売上高は、27億49百万円（対前年同期比107.2%）となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における製菓事業全体の売上高は、304億93百万円（対前年同期比103.8%）と増収を達成することができましたものの、原材料価格の上昇、特にチョコレート原料やアーモンドなどの高騰が収益を直撃し、前年の利益を割り込むことになりました。

<その他>

通販・キャラクター事業部のライセンス事業への取り組みや、(株)不二家システムセンターの受注請負、データ入力サービスなどの事務受託業務の売上が増加したことにより、その他事業の売上高は8億3百万円（対前年同期比109.7%）と前年同期を上回りました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における資産、負債、純資産の状況は以下のとおりであります。

流動資産は250億1百万円で、主に売掛債権やたな卸資産の減により前連結会計年度末に比べ21億41百万円減少いたしました。固定資産は316億45百万円で、主に有形固定資産の増により、前連結会計年度末に比べ21億60百万円の増加となりました。

この結果、総資産は566億46百万円で前連結会計年度末に比べ18百万円増加いたしました。

また、流動負債は182億10百万円で、主に仕入債務の減により前連結会計年度末に比べ11億21百万円減少いたしました。固定負債は100億53百万円で、主に長期借入金の新規約定や社債の発行により前連結会計年度末に比べ21億62百万円増加いたしました。

この結果、負債は合計282億63百万円で、前連結会計年度末に比べ10億41百万円増加いたしました。

純資産は283億82百万円で、主に配当金の支払や四半期純損失の計上により前連結会計年度末に比べ10億23百万円減少いたしました。

次に、当第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、44億35百万円（前年同四半期は35億18百万円の獲得）となりました。これは主に売上債権の減少やたな卸資産の減少によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、18億60百万円（前年同四半期は13億87百万円の使用）となりました。これは主に有形固定資産の取得によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、13億69百万円（前年同四半期は2億44百万円の使用）となりました。これは主に長期借入金の新規約定や社債の発行によるものであります。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、112億10百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の業績動向を踏まえ、平成26年2月13日に決算短信で公表いたしました平成26年12月期（平成26年1月1日～平成26年12月31日）の業績予想を修正しております。

詳細につきましては、本日（平成26年7月31日）公表いたしました「平成26年12月期第2四半期連結累計期間業績予想値と実績値との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,070	11,704
受取手形及び売掛金	12,551	7,403
商品及び製品	3,364	2,640
仕掛品	283	316
原材料及び貯蔵品	2,292	2,053
繰延税金資産	209	192
その他	680	965
貸倒引当金	△309	△274
流動資産合計	27,143	25,001
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,838	7,059
機械装置及び運搬具（純額）	6,955	7,136
土地	2,936	3,711
リース資産（純額）	1,552	1,446
その他（純額）	583	755
有形固定資産合計	18,866	20,109
無形固定資産		
のれん	239	671
その他	291	317
無形固定資産合計	531	988
投資その他の資産		
投資有価証券	6,885	6,940
繰延税金資産	195	165
敷金及び保証金	2,268	2,787
前払年金費用	304	143
その他	649	682
貸倒引当金	△217	△172
投資その他の資産合計	10,086	10,547
固定資産合計	29,485	31,645
資産合計	56,628	56,646

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,565	5,386
短期借入金	4,227	4,985
1年内償還予定の社債	354	494
リース債務	463	454
未払金	4,981	3,839
未払法人税等	405	265
賞与引当金	280	300
店舗閉鎖損失引当金	20	4
その他	2,033	2,480
流動負債合計	19,331	18,210
固定負債		
社債	625	1,558
長期借入金	3,265	4,553
リース債務	1,241	1,145
繰延税金負債	-	152
退職給付引当金	1,430	1,584
長期末払金	790	501
その他	537	557
固定負債合計	7,890	10,053
負債合計	27,222	28,263
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,280	18,280
資本剰余金	4,065	4,065
利益剰余金	5,779	4,868
自己株式	△15	△15
株主資本合計	28,109	27,198
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	36	107
繰延ヘッジ損益	17	△5
為替換算調整勘定	406	277
その他の包括利益累計額合計	460	378
少数株主持分	836	805
純資産合計	29,405	28,382
負債純資産合計	56,628	56,646

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年6月30日)
売上高	44,847	48,375
売上原価	23,515	26,313
売上総利益	21,332	22,062
販売費及び一般管理費	21,090	22,232
営業利益又は営業損失(△)	242	△169
営業外収益		
受取利息	6	19
受取配当金	52	78
持分法による投資利益	159	42
その他	102	136
営業外収益合計	321	276
営業外費用		
支払利息	57	62
社債発行費	-	25
その他	48	54
営業外費用合計	105	142
経常利益又は経常損失(△)	458	△35
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	0	-
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産廃棄損	42	58
投資有価証券評価損	5	0
災害損失	-	12
特別損失合計	48	71
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	410	△106
法人税、住民税及び事業税	178	294
法人税等調整額	27	15
法人税等合計	206	309
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	204	△416
少数株主利益	68	107
四半期純利益又は四半期純損失(△)	135	△523

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主 損益調整前四半期純損失(△)	204	△416
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	164	66
為替換算調整勘定	314	△179
持分法適用会社に対する持分相当額	10	△18
その他の包括利益合計	489	△132
四半期包括利益	693	△548
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	535	△605
少数株主に係る四半期包括利益	157	56

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整 前四半期純損失(△)	410	△106
減価償却費	1,523	1,600
持分法による投資損益(△は益)	△159	△42
売上債権の増減額(△は増加)	4,622	5,945
たな卸資産の増減額(△は増加)	913	1,040
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,913	△2,037
未払金の増減額(△は減少)	△1,456	△1,453
その他	△350	△249
小計	3,590	4,697
利息及び配当金の受取額	275	280
利息の支払額	△57	△60
法人税等の支払額	△291	△481
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,518	4,435
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△0	△250
定期預金の払戻による収入	7	491
投資有価証券の取得による支出	△2	△122
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得 による支出	-	△648
固定資産の取得による支出	△1,357	△1,355
固定資産の売却による収入	5	2
その他	△39	22
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,387	△1,860
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△820	390
長期借入れによる収入	2,000	1,500
長期借入金の返済による支出	△453	△622
社債の発行による収入	-	1,000
社債の償還による支出	△177	△177
割賦債務の返済による支出	△24	△8
リース債務の返済による支出	△232	△274
配当金の支払額	△507	△383
少数株主への配当金の支払額	△29	△55
その他	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△244	1,369
現金及び現金同等物に係る換算差額	68	△27
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,953	3,916
現金及び現金同等物の期首残高	8,552	7,294
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,506	11,210

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	洋菓子事業	製菓事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	14,728	29,385	44,114	732	44,847	—	44,847
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	381	381	337	719	△719	—
計	14,728	29,767	44,496	1,070	45,566	△719	44,847
セグメント損益(△は損失)	△33	1,546	1,512	72	1,585	△1,343	242

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、キャラクターグッズ等の通信販売、ライセンス事業、不動産事業及び事務受託業務等を含んでおります。

2 セグメント損益(△は損失)の調整額△1,343百万円には、固定資産減価償却費の調整額7百万円、のれんの償却費の調整額△31百万円、その他の調整額6百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,325百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費に係る費用であります。

3 セグメント損益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成26年1月1日 至 平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	洋菓子事業	製菓事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	17,079	30,493	47,572	803	48,375	—	48,375
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	391	391	344	735	△735	—
計	17,079	30,884	47,963	1,147	49,111	△735	48,375
セグメント損益(△は損失)	△198	1,367	1,168	103	1,272	△1,441	△169

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、キャラクターグッズ等の通信販売、ライセンス事業、不動産事業及び事務受託業務等を含んでおります。
- 2 セグメント損益(△は損失)の調整額△1,441百万円には、固定資産減価償却費の調整額6百万円、のれんの償却費の調整額△45百万円、その他の調整額4百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,407百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費に係る費用であります。
- 3 セグメント損益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。
2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
(のれんの金額の重要な変動)
- 「全社」のセグメントにおいて、株式会社スイートガーデンの株式を全額取得したことにより、のれんを計上しております。
- なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間において477百万円であります。